

てんざい新聞

13.1.No187
発行所 福岡県
責任者 藤田 謙
0863-88-5292

賀正

今年もよくお願ひします

新年、二〇一三年は、実に静かに、穏やかにスタートしました。いやいや祖谷がずいど静か。朝、山が雪がふりつぎはしました。本当に静かな朝、そして一日でしたよ。

風もなく、ゆつくりと流れる時、昨日と今日だけの違いなのに、なぜか新しい世界が開ける様な気持ちになる。不思議、今年もよろしくお願ひ致します。

それにして、十二月はあつという間に経ってしまつた様に感じた。

クリスマス、クリスマスとさうしてたのが年末、新年と走りまくる印象ですが、その中に「総選挙」という御負けがつかまつりました。結果、日自さんはどう感じましたか。

当然、ヒックリ、ヤッパリ、ガッカリ等々それぞれ違つてしまつたが、投票率が50%といかない中、選ばれる人たちが、困る左右あるのも不思議といえは不思議。これも「民主主義」というのだから、これは「ヤッパリ」の方ですね。たに、東日本大震災、福島第一原発で住めなくなつた地域があり、同じ不安がある日本は、どうなつたらいいのかというのが強



軒先で風に揺れる柿 流れる空気には天国

この号の頭はニセカマの二ことなわかれの両段から加ふるのと使はしよ

く感じました。沖縄に基地を築かせ続けられている事と同じような事が原発問題にもあるとおもいます。ごみの処理なども同様な事がよくあります。自分の所場所がよければ、他人の事はどうも、と、という考えは、祖谷という団舎でも小さな事ですが、少なくない事を考えれば、選挙も当然の結果なのかも知れませんが、なにか心をなやまして、寒々してききました。ともかく、自分の生き方をどうすべきかを期し、自分の生き方を一人にすると考

之は十二月でした。

また十二月には、昨年、祖谷の各地で撮影した、画「祖谷物語」おふのひと」が完成し、東海沿い、池田町で一回の試写会があり、東祖谷では、五人以上の日自さんが見込にまうた。私は残念ながら、当日、他の事があり見ることが出来ませんでした。

貝に人によつて、祖谷の風景を見直した。きれいだったという事が多かつた様です。有り難いことです。

ただ、ヒートはしてほしいが、それが観光が来ると、ゴミや自然を荒らすというほしきありませんとはおもいます。

理屈など、どうでもよく集めればいいの、事、想像すれば「進歩」とは「生きる」ことの意味ではないのかなあ。

十二月に読んだ本の中に、宮本輝の命の器があり、その中で強く響いた言葉が最後に。

「日本人は、国が平和でなければ個人のゆとりも保てないという、きつめな強固な論理すら負つてはいるであろう。

そこで、やつとそれに負つたときは、推力者によつて徒勞を組ませ、行進していることであろう。ああ不思議日本人、これを讀んだ時、二十代の時の事を思い出しました。父親に「どうして戦争に行つたのか、オヤジは、中国人を殺してはいいのか」を問ひ、議論したことが。

「どうしようもないやつだ」という事ですが、果してその時代の代表か、自分はどういう生き方をしようかと来たのかを重んじました。重い重い向ひかけ、自分の